

スーパーシート

「あの日、あの時……」

ITbook
宇田川耀平社長 (59)



倫理観、誠実さを組織に浸透させる

6月から社長に15年ぶりに復帰した。1990年の6月、私が25歳の時、東京・早稲田の小さな部屋で友人と2人で創業した時、34年後の同じ6月に社長就任のあいさつをするとは想像もできなかった。

復帰に際して、私が最も重視しているのはインテグリティ（高い倫理観、誠実さ）を組織に浸透させることである。経済学者のピーター・ドラッカーは「職場風土は戦略に勝る」と述べている。いくら優れた経営戦略を練ったとしても、組織風土が腐敗していれば思うような成果を手にするにはできない。規範に基づいた行動がコ

ンプライアンスだとすれば、自身の考えに基づいて自律的に行動することがインテグリティである。インテグリティを持った組織は時代の変化にも強く、困難な状況に

うたがわ・ようへい

1965年東京生まれ。88年東京大学教育学部卒、日興証券入社。90年にデュオシステムズを設立し代表取締役役に就任。2004年東証マザーズに上場した。10年にしゃかいデザインを設立し代表取締役役に就任。扱った漆塗りなどが国際漆展石川やウッドデザイン賞で入賞した。北京で国際シンポジウムを開催したこともある。24年6月より現職。趣味はゴルフとピアノ。ピアノは「大阪国際音楽コンクール」アマチュア部門で2位入賞の経歴を持つ。

陥ろうともそれを覆す力を持つと確信している。

わが社は業務・システム最適化ビジネスを中核として04年に東証マザーズに上場した（現在は非上場）。以降も政府・自治体のIT支援は主力ビジネスとして継続している。長期にわたり政府・自治体のIT化推進に寄与している企業だ。

現在では、ガバメントクラウドを活用し、地方公共団体におけるデジタル基盤を整備することによって、住民の利便性の向上及び地方公共団体の行政運営の効率化を目指す、政府の施策である自治体情報システムの標準化・共通化に関わるコンサルティングを主な業務としている。主な顧客は全国の政令市、中核市を中心とした地方自治体である。

自治体の仕事は、90年代最後に東京の某特別区で行政評価システムを構築したのが最初だった。事務事業評価に関する資料が乏しい中、三重県、岩手県など当時の先端自治体を調査した。特に米国のサニーベール市から丁寧な書類をいただいたときは感激した。職員の方々と何度も深夜まで議論を繰り返し、業務システム仕様を作っていた。ネットワーク環境も現

在とは比較にならないほど脆弱な中、繁忙期には同時に数千人の職員が稼働するシステムが動いた時は体の力が抜けるくらいほっとした。

政府の施策である「新しい資本主義」にもあるように、政府と企業が協力して、公共の目的を達成しながら経済成長を促す新しい思想に基づいた時代が変わりつつある。実際、政府・自治体の補助金が資本投下のような効果的な働きをするケースも増えている。

ガバメントクラウドの活用によって、全ての自治体が最高水準のシステム基盤での住民サービスが26年4月以降開始される。今後データ標準化と相まって、地域交通、防災、教育、医療・介護などさまざまな地域課題の解決も加速すると予測している。

また、24年第1四半期のインバウンド消費は1・7兆円であり、通年では7兆円を越す勢いだ。インバウンドのさらなる成長のためにも観光DXの推進も、地域経済の発展のために必須となっている。わが社はIT技術のみならず、マネジメント、財務会計などさまざまな技術を駆使して、新しい資本主義の実現に貢献できるようにサービスの質を向上させてエクセレントカンパニーを目指したいと考えている。